

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (九州)	◎	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・新型車の市場投入による受注量増加と客の動きが良くなっている。
	◎	住関連専門店（従業員）	単価の動き	・酷暑の影響で来客数は落ち込んでいる。一方、店舗で行う集客催事の業績が良く、単価の動きは好調である。
	◎	観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・夏休みは宿泊客が多く、ほとんど家族連れである。今までとは違い、宿泊日間に予約があるため予測が付かず、スタッフのシフトを決めることができない。
	○	商店街（代表者）	単価の動き	・オーダーメイドのノベルティやキャンペーンチラシなどの製造が増加しており、コロナ禍からの経済回復の兆候がみられる。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・コロナ禍であるが、平日午後からの来客数が増加している。
	○	百貨店（企画担当）	お客様の様子	・旅行や帰省、また、大人数で来店する客が増加し、購入目的が多く見受けられた。
	○	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・猛暑と新型コロナウイルス感染症の感染再拡大で慎重な外出姿勢は続いている。しかし、夏祭りや花火大会の開催、店頭でのお中元ギフトや全店での催事開催では、来客数が回復している。オンラインや電話、F a x利用のギフト通信販売、県下のサテライトショップやギフトショップへの来店は堅調であるが、人混みを避ける慎重な外出姿勢がみられるようになっている。一方、お中元ギフトセンターでの持ち帰りは依然減少傾向である。
	○	百貨店（経営企画担当）	来客数の動き	・前月後半は新型コロナウイルスの新規感染者数が急増して来客数が落ち込んだが、今月は持ち直し、客単価も前年と比較して上向いている。
	○	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・依然、新型コロナウイルス感染症の報道により個人の行動への注意喚起は続いているものの、新型コロナウイルス感染症発生前の社会生活に戻っている印象を受ける。
	○	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しているが、猛暑が続いたことで夏物商材が動いており、来客数は前年を上回っている。しかし、まだ新型コロナウイルス感染症発生前の状況には戻っておらず、経営的には厳しい状態が続いている。
	○	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・コロナ禍でも行動制限がなく、猛暑が続いたため、来店頻度が高くなり、飲料水や軽食の販売が上昇している。近隣の商圏外からも旅行や行楽移動の客が増加しており、新型コロナウイルス感染症の発生前に戻っている。
	○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・お盆期間中の客の動向が上向きである。
	○	家電量販店（店長）	販売量の動き	・商品供給が多少改善傾向にあり、客に商品を提供できる環境に戻りつつある。
	○	家電量販店（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の第7波が猛威を振るっているが、来客数は伸長している。
	○	乗用車販売店（役員）	来客数の動き	・新型車発表の効果により、来客数が増加している。
	○	観光旅館組合（職員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数は高止まりしているが、ブロック割等の影響で宿泊客は多い。ただし、旅先での感染もあるため、受入れができない事態も起きている。
○	タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が高止まりしているにもかかわらず、インバウンドがいない状況でも国内旅行来客数は増加している。イベントも新型コロナウイルス感染症の発生前に近い状態で行われており、夜の歓楽街では人出がやや減少しているものの、昼間の人出はほぼ回復している。	
○	通信会社（営業担当）	それ以外	・様々な催物が3年ぶりに復活し、消費活動も活発化している。	
○	ゴルフ場（営業）	来客数の動き	・来客数は増えているが、客単価が下がっている。	

<input type="checkbox"/>	百貨店（経理担当）	競争相手の様子	・市内大型店3店の売上の見通しは前年比108.9%、3か月前の売上は前年比121.6%で推移しているが、2019年比で考えると変化がない。特にお盆以降は、新型コロナウイルス感染症の影響で失速している。
<input type="checkbox"/>	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症による行動規制はないものの、新型コロナウイルスの新規感染者数が高止まりしていることもあり、客が自粛している。売上は前年を上回っているが、新型コロナウイルス感染症発生前の状況には3割ほど達していない。今後も新型コロナウイルス感染症が前提にあることを考えなければいけない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当・店長）	販売量の動き	・値上がりの影響で、単価は上がっているが、来客数と買上点数に伸びがない。売上は前年と比較すると若干伸びているが、利益は余り上がっていない。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・緊急事態宣言下の前と比べると新型コロナウイルス感染症の影響は少ないが、猛暑続きのためターゲットであるシニア層が外出自粛しており、来客数が伸びない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・新車の長納期がいつになっても解消しないため、販売店は無駄な費用が発生している。利益確保が難しく、厳しい経営状況が続いている。
<input type="checkbox"/>	住関連専門店（経営者）	単価の動き	・久しぶりの都市部でのキャンペーンで、来客数は多くないが、客単価は良い状況である。店でも前月に引き続き、下見の客が購入決定のために来店している。
<input type="checkbox"/>	その他専門店 [コーヒー豆] （経営者）	販売量の動き	・7～8月はお中元シーズンとなり、店頭の販売量は一定数の売上がある。2～3か月前と比較すると売上増加しているが、前年との比較では、ほぼ横ばいである。
<input type="checkbox"/>	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] （支配人）	お客様の様子	・8月も終盤に差し掛かり、前年比110%の商況である。しかし、3か月前は新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着いており、ゴールデンウィークの消費動向が非常に活発だった点を考慮すると、期待したほど大きなプラスではないと判断している。加えて、前年のお盆時期は豪雨により売上が良くなかったため、この水準が決して良い状況とは考えられず、景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] （統括者）	来客数の動き	・今年はお盆期間中の行動制限がなかったため前年と比べ来場者は多いが、海外からの客が戻るまでは厳しい状況である。
<input type="checkbox"/>	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・補助事業の影響もあり、僅かではあるが客足が戻りつつあったが、当県でも新型コロナウイルスの新規感染者数が過去最高を更新しており、高止まり状態である。そのため、徐々に客が減少している。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	お客様の様子	・人の動きは前年より良いが、タクシーよりレンタカーの利用が増加している。
<input type="checkbox"/>	通信会社（統括者）	販売量の動き	・携帯電話等の販売数は前年や計画値をやや下回っている。店外イベントを開催する等、販売促進策を実施している。
<input type="checkbox"/>	競馬場（職員）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大は続いているが、今のところ大幅な客足減少にはつながっていない。
<input type="checkbox"/>	その他サービスの動向を把握できる者（所長）	お客様の様子	・客先である工場に弁当を納入しているが、新型コロナウイルス感染症の発生前は月に1万食あったが、コロナ禍になり1～2割程度減少している。この3か月も8000食前後で推移している。
<input type="checkbox"/>	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・夏休みやお盆で、外出も時間にとられないため、客の出足は悪くない。景気は両極端で良いときもあれば、悪いときもある状態である。
<input type="checkbox"/>	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加傾向ではあるが、8月は長期のイベント実施により、来場者数は前月増加で推移している。
<input checked="" type="checkbox"/>	商店街（代表者）	販売量の動き	・猛暑が続き、来街来客数や来客数が減少している。加えて、新型コロナウイルス感染症が再拡大しているため、外出する客も減り、売上が落ち込んでいる。

▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街では、イベントが3年ぶりに再開され、お盆は悪いなりに来街者があった。しかし、お盆を過ぎて新型コロナウイルスの新規感染者数が過去最大を更新し、来街数や来客数が極端に減少している。
▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・社会状況のなかで、商売が悪い方向に進んでいるため、売上につながらず、来街数も少ない。
▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・春先から来客数が増加し、景気が顕著に回復したと思われるが、8月になり再び景気が下降傾向である。
▲	一般小売店〔青果〕（店長）	単価の動き	・全国的な高温障害と東北、北海道の長雨の影響で、物が少なく高額で、商品が悪くなっている。需要が少なく厳しい状況が続いている。
▲	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	お客様の様子	・漁獲量が少ないため、入荷量が全く増えず、価格が高騰し売行きが悪い。例年であればお盆後には魚は捕れるが、今年は漁に出ても魚がいない状況となり危惧している。
▲	一般小売店〔精肉〕（店員）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響で、販売先の飲食店でのキャンセルが多くなり、販売量が落ちている。加えて、飲食店の責任者や従業員に新型コロナウイルス感染症患者が発生し、休業になっている。
▲	一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の影響で、予定していた行事が中止になり、キャンセルになることもあり、花の需要が減少し売上に響いている。
▲	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	お客様の様子	・今年の暑さは、例年の暑さと違い36度以上が毎日続いている。そのため、人の動きは鈍く、通行人がほとんどいない。新型コロナウイルス感染症と暑さで売上は減少しており、ここ数か月間は状況が変わりがない。
▲	スーパー（店長）	お客様の様子	・物価高騰により買上点数は低下しており、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加で買物頻度の低下が、アパレルを中心として顕著に数値へ表れている。来客数と買上点数の前年割れが収益ダウンに直結している。
▲	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・社員のなかにも新型コロナウイルス感染症の感染者や濃厚接触者が増加し、勤務シフトが思うようには組めず売場作りにも影響が出ている。消費者の生活様式も変化し、外出する機会が増えており、食品スーパーマーケットでの買いだめ等は少なくなっている。加えて、相次ぐ値上げで消費者の価格選別志向はますます強まり、ディスカウント店に客足が向いている。
▲	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・猛暑が続き、売上が芳しくない。値上げ商品が多く、価格に反映させているため、1品単価が2～3%上昇しており、その影響で買上点数が8～9%低下し、購入額が減少している。
▲	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響は、甚大である。大幅な来客数減少と感染防止対策、人手不足などあらゆる影響が出ている。現在経営している店舗では、深刻な状態となっており、早急に大幅な経費削減をしなければ、運営できない厳しい状況が継続している。
▲	コンビニ（店長）	それ以外	・スタッフの新型コロナウイルスの新規感染者数が増加すると、人件費や店の一時閉店などの事態が予想される。
▲	家電量販店（店員）	販売量の動き	・7～8月の売上は非常に悪い。ボーナス商戦が7月にはなく、8月へ期待をしていたが、更に輪を掛けて落ち込む状況になっている。来客数も少なく、家電の全般的な商材も利益が悪い。
▲	乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・車体価格が上昇しているため、新車の需要が減少している。
▲	乗用車販売店（代表）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染拡大による影響で、景気は悪くなっている。
▲	その他飲食の動向を把握できる者〔酒卸売〕（経理）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増え続けており、外食が減少し、景気も若干悪くなっている。加えて、学校では2学期が始まることで、更に感染が拡大すると予想され、やや悪い状況が継続する。
▲	通信会社（社員）	来客数の動き	・オンライン化が進んでいることも悪くなっている要因の1つである。
▲	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・光回線の販売件数が減少している。

	▲	通信会社（役員）	単価の動き	・大きく変わらない状態が続いている。
	▲	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・前年より入場者を確保できていたが、8月中旬頃から予約数が伸び悩み、9月の予約は更に悪化傾向にある。新型コロナウイルス感染症に伴うものか、それ以外の要因によるものなのかは不明である。
	▲	美容室（経営者）	販売量の動き	・この業界では8月は忙しい時期であるが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、客の外出自粛傾向もあり、商品の動きが悪い。何か対策があれば客の動きも良くなり、自粛生活にも変化が出ているため、景気が良くなる。
	▲	美容室（店長）	お客様の様子	・店のお盆休みを3日取った影響もあるが、今までになく客足が悪く、周辺でも悪い状況である。
	▲	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症第7波の拡大が想定を超え、客からのキャンセルが増加している。また、ウクライナ情勢に伴うエネルギーの高騰や消耗品等の負担も増え、収益が前年より大きく落ち込んでいる。
	▲	設計事務所（代表）	単価の動き	・物価が引き続き上昇している。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・4月には商店街で火災が発生しているが、8月にも再度、火災が発生したため、商店街で通行止めがあり、電話やガス、水道、電気のライフラインを使用することができず、最悪の状態で営業を続けている。
	×	商店街（代表者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加や猛暑による外出自粛、また、物価上昇で消費者の購買意欲は全くない。
	×	百貨店（企画担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、ファミリー層を中心に来客数は減少傾向にある。宝石や時計など高額品は堅調に推移しているが、衣料品等の商材供給不足もあり、売上は低迷している。
	×	スーパー（店長）	販売量の動き	・食品の売上が前年より下降傾向である。畜産や酒類、調理素材関連が低迷している。
	×	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・8月になり来客数が減少している。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、外出にちゅうちょしている。
	×	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・7月の下旬には客が入っていたが、8月に新型コロナウイルスの新規感染者数が増加していくにつれキャンセルも増え、新型コロナウイルス感染症の第7波の流行で客が来店しなくなっている。
	×	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症が落ち着いたようにあったが、また新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しているため人通りが悪くなり、休業している店が多くなっている。当店では県外からの里帰りの客が若干あった程度である。
	×	観光型ホテル（総務）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の第7波により、飲食提供がメインの宴会場運営をしているため、宴会需要が見込めず厳しい状況である。
	×	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・夏休みは、それなりに来客数も増えていたが、新型コロナウイルスの新規感染者数が高止まりしている影響で、9月以降の予約状況はかなり悪い。
	×	設計事務所（所長）	単価の動き	・建築に関しては、材料や製品の価格高騰や入手困難が続いているため、建築価格の上昇が続いている。その反面、所得は増えておらず、生活必需品の値上げもあり、自由に使える資金が減っている。
企業動向関連	◎	—	—	—
(九州)	○	食品品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・閑散期に当たる時期ではあるが、受注が比較的順調であった。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・取引先では、これまでの問題点が解決され始めているため、現況は2～3か月前と状況は同じであるが、今後は上向きになっていく。
	○	電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・自動車関連では、特に電動関連のモーターや、半導体関連での引き合いが続いている。

○	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・地方の多くの建設業社では、公共工事に依存する会社が非常に多い。第2四半期になってようやく発注工事が多くなり、選択もできるようになっており、現状が少しでも長く続いてほしいのが本音である。しかし、受注は抽選であるため、確実に受注できるわけではなく、多くの契約をつなげていきたい。
○	金融業（従業員）	取引先の様子	・百貨店の売上や住宅販売が持ち直しているほか、旅行商材や飲食店の売上も緩やかながら回復傾向にある。また、雇用情勢も改善傾向を示している。
○	不動産業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・売上が若干上向きになっている。
○	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・取引先が採用や人材教育投資に積極的になっている。
○	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・夏休みであったことも影響し、7月より状況が良くなっている。ホテルなどの観光業では客が非常に多く、店や宿泊の予約が取れないこともある。一方、ビジネスホテルや飲酒がメインの飲食店では、相変わらず厳しい経営が継続している。
□	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・8月の滑り出しは順調であったが、お盆辺りから状況に変化が出てきた。期待したほどの引き合いがなくなり、売上が伸びていない。特にお盆明け以降は、新型コロナウイルス感染症のまん延で動きが悪くなっており、商品の値上げをせざるを得ない状況となり、今月は計画の90%を維持できるか懸念される。また、工場生産では新型コロナウイルス感染症の感染があり、思うような生産ができない厳しい状況である。
□	金属製品製造業（事業統括）	受注価格や販売価格の動き	・物件数や引き合い数は増加傾向にあるが、他社との競争は厳しく、材料の価格高騰を製品価格に転嫁できない。
□	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・引き続き受注は好調を継続しているものの、原材料、副資材、消耗品の品薄や価格高騰は更に深刻になっている。
□	その他製造業 [産業廃棄物処理業]	取引先の様子	・原材料調達が難しく生産量が増えない。製造ラインは増設しているが思うようには進んでいない。
□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数の高止まりが続いているが、イベントやレジャー関連で、規模の縮小や入場制限等の対策を講じながら、中止や閉鎖を回避する動きが目立っている。新型コロナウイルス感染症に感染し自宅療養となる人が増え、食品スーパーマーケットでは、飲料水やレトルト食品等の売行きが好調である。
□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染症による行動制限は発令されていないが、新型コロナウイルス感染症の再拡大を背景に人流の増加や、小売業やサービス業の回復も落ち着いている。製造業では、資源価格の高騰や供給不足を背景とする生産抑制が継続している。
□	新聞社 [広告]（担当者）	受注量や販売量の動き	・通信販売関連の新聞広告出稿は少し増加傾向であるが、新型コロナウイルス感染症の影響で旅行や自治体観光関連の出稿が減少している。
□	広告代理店（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響で、受注量や売上は低水準ながら堅調に推移している。しかし、当社を含めて競合他社も値上げの要請が相次いでいる。
□	広告代理店（役員）	受注量や販売量の動き	・客先からの発注件数や予算総額に大きな変化がない。
□	経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・受注量に変化の兆しがみえない。
□	その他サービス業 [コンサルタント]（代表取締役）	競争相手の様子	・市町村からの調査や計画、設計の委託業務を請け負っているが、全体的に発注量が少ない状況で指名競争入札があった場合、予定価格の3～4割の値段で入札に応じる業者が増えている。比較的、大手の事業所もそのように対応している場合があり、このため、景気が悪い状況にあると考えられる。
▲	繊維工業（営業担当）	それ以外	・資材の値上げを提示されているが、最低賃金が上がった場合、工賃を上げることができると危惧される。

	▲	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・現況は、最低賃金上がり、加えて燃料や資材関係も値上がりになり、肝腎な下請関係も2割程度の値上がりが予定している。8月までは、どうにか現状維持で受注してきたが、今後は先行きが不安な状態である。
	▲	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・好調であった半導体製造装置関連の金属加工品の受注が落ちている。
	▲	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3年ぶりに新型コロナウイルス感染症による行動制限のないお盆ではあったが、飲食店等への納品は新型コロナウイルス感染症発生前の水準には戻らず、荷主は今後も消費の期待ができないため、輸入を減少させる傾向にある。また、物価高により住宅の受注も低迷しており、木材を使用する戸建て住宅などの販売不振もあり、木材関係はかなり厳しい状況が続いている。
	▲	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・物価上昇や新型コロナウイルス感染症第7波の影響により、出荷量が少なく倉庫内の在庫は増えており、保管許容量がひっ迫している。新型コロナウイルス感染症発生時の景気低迷と状況が似ており、良い状態ではない。
	▲	金融業（営業）	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染症第7波の拡大は想像以上であり、景気に影響が出ている。しかし、行動制限がないため、今までより影響は少ないが、新型コロナウイルスの新規感染者数は多い。
	▲	金融業（営業担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が7月末から8月にかけて増加傾向にあり、感染者の自宅療養や濃厚接触者の自宅待機により、取引先の中小企業などでは、人手不足や仕事の進捗の遅れで景気が悪くなっている。
	▲	経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症第7波や局地的豪雨、記録的猛暑、また、続く値上げで、購入意欲が落ちている。
	▲	その他サービス業〔物品リース〕（職員）	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染症の影響やロシアのウクライナ侵攻等により、円安傾向が継続しており、変化がみられない。また、世界的な半導体不足等から物品供給は遅延する傾向となっているため、企業として受注が厳しい状況にある。
	×	農林水産業（従業者）	取引先の様子	・例年と比べて、高温や日照不足の夏となっていることから、北海道の出荷不足や遅れの影響を受けて、農作物の価格は高値傾向にある。しかし、大きく上がっているわけではなく、肥料の価格高騰の影響から、農業者の所得圧迫は大きい。
雇用関連	◎	—	—	—
(九州)	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しているが、イベント等の中止はなく稼働が戻りつつある。
	○	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・派遣の求人数が今月は多い。その原因として、求人依頼内容が社員の不補充枠や産休交代などで問合せが増加しており、今まで社内調整で人件費を抑えていた部分が若干動いている。
	○	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・新型コロナウイルスの新規感染者数は高止まりになっているものの、以前のように経済が止まることはなく、夏休みやお盆などがあることで人の動きも活発になり、交通や観光、飲食などでの消費も上向いている。
	○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人倍率が3か月前より上昇しており、また、有効求人数の前年比の増加が16か月連続している。全産業での求人数の増加も継続している。特に宿泊業からは7月までに来館者が戻っており、8月には予約が入っている。
	○	民間職業紹介機関（職員）	採用者数の動き	・調査や学校へのヒアリングでは、2023年卒業予定の学生の内定状況は前年より良い。また、合同企業説明会の参加学生も少なく前年の6割ほどである。かなりの学生が内定をもらっており、景気が良くなっていると考えられる。
	○	民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・お盆は求職者の動きが落ち着いているが、9月に向けて徐々に応募数も回復している。併せて有効求人倍率も3か月連続の上昇となり、企業の採用に関しても問合せが増加している。

□	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・飲食店の夏需要が伸びておらず、どの店も来客数が少ない。
□	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・有効求人倍率は、前年比が13か月連続で改善しているが、幅広い業種で人手不足感が強まっている。
□	学校〔大学〕 （就職支援業務）	求人数の動き	・2023年卒業求人数は、前年と比較すると増加しており、内定報告をする学生は前年比では大きな変化はなく、企業の新卒求人も緩やかではあるが、上昇傾向にある。ただし、長引くロシア、ウクライナ情勢の更なる悪化や物価上昇が続くことになれば、日本経済は大きな打撃を受けることになり、今後の企業の求人にも影響が出てくる。
▲	人材派遣会社 （社員）	求人数の動き	・社員が退職しても、補充をしない企業もあるため、注文数が2割ほど減少している。季節要因もあるが、求職者の活動も鈍っている。
▲	新聞社〔求人広告〕 （社員）	周辺企業の様子	・行動制限が適用されていないため、新型コロナウイルス感染症の第6波ほどではないが、やはり人の動きが3か月前と比較すると、景気が減速している。旅行会社の広告は、一時期ほどの出稿量はないが、ゼロにはなっていない。また、求人広告のお盆特集は、前年を下回る結果になっている。
▲	新聞社〔求人広告〕 （担当者）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数や濃厚接触者による休業者が多く、業務が滞ることが増えている。
×	—	—	—